

# 教育ニュース「三元 夢求」 20

平成 23 年 1 月 24 日

広島市立吉島小学校

「兎の上り坂」の卯年も、はや1か月が過ぎようとしています。この間、児童は日常の授業とともに、書き初め週間、生活リズム週間、なわとび週間、そしてこの日からは給食週間と、頭・心・体が元気になる活動（「三元活動」）に取り組んでいます。

そんななか、図書室前の掲示板に、20人の児童の笑顔が。まさに「継続は力なり」。100冊を超える本を読んだ児童の写真とお薦めの本紹介です。

ところで、読書好きな児童に、「自分にとって読書とは？」と問うた全国調査があります。読書とは、「魔法」「宝物」「タイムマシン」などとともに、「山登り」との回答も。

それには、こんな理由が添えてありました。「山頂にたどり着くと、とてもきれいな景色に出会え、なんだか爽快感、満足感がもてる。勇気や自信をもらえることがあるから」と。まさに「兎の登り坂」。

私もこんな思いになりたい！。児童にも味わってほしい。（どうしたら？）それは、短時間でも本の世界にふれる時間を多くもつことでしょう。「百聞は一見に如かず 百見は一考に如かず 百考は一行に如かず」即実行してみる事が大切なようです。頭と心が確実に元気になりますよ。



身のまわりの生活のなかの疑問・感動が、科学的な追究に ~県科学賞にて入選~

今回、本県の科学賞に入選者が3人。なかには1年生も。

例えば、5年生の「リサイクルはできるのか？」では、祖母の家で見た光景が研究の契機に。土に植えてあった葱の根っ子が食するまでに成長していたのです。このときの疑問「え？どうして。じゃあ~ほかの野菜は？」が追究の種に。

ここから児童の追究のたびが始まる。自らカブやジャガイモ、ニンジンなどの根っ子を土に植え、育ちの結果予想 定期的な観察・記録 結果予想・・・（毎日の気温の状況も） いろいろな野菜の育ちの類似点・相違点の検証 検証結果のまとめ、と科学研究が進められたのです。まとめの結びには、関係の図書やインターネット情報を参考にした考察結果が見事に表現されていました。

「箱をあけると・・・」の製作に取り組む6年生！ オンリーワンの箱がもう少しで完成に

卒業を前に、6年生が思い出箱づくりに取り組んでいます。小学校生活の思い出を箱のなかにつめこむこの製作活動は、箱を開けてほしい人と共有したい箱のなかの世界を想定しそれを造形化するもので、今、その世界が形として箱のなかを描かれつつあります。

箱を開けてほしい対象には、例えば、「生活を満喫した自分」「20年後の自分」「いつも輝いていた自分」をはじめ、「感謝したい家族」「絆を深めた友だち」「いつも仲良くしてきた1年生」などが。

製作の工法には、びっくり箱に似た手法も。また、製作の机上には、テーマを記したカード、製作スケッチデザインが置かれる。児童はそれを意識しながら根気強い活動、児童相互が知恵を交換しながら活動を続ける。その知恵だしの輪には、先生も一員に加わる。そして、児童の製作手法のひきだしを増やそうと大型スクリーンに児童作品を写しだしそのよさを誉める先生の姿が。まさに師弟同行の卒業作品づくりが進んでいます。作品の完成が楽しみです。

